

Title	「シンポジウム・藤井治彦」と以下の3つの文章について
Author(s)	服部, 典之
Citation	Osaka Literary Review. 2019, 57, p. 85-86
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71979
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「シンポジウム・藤井治彦」と 以下の3つの文章について

服部 典之

本 *OLR* 第 57 号 (2019 年刊) では、阪大英文学会第 50 回記念大会 (2017 年 10 月 28 日) で開かれた「シンポジウム・藤井治彦」でご登壇いただいた先生方の 3 人にその折のお話を文章にさせていただき、ご寄稿いただきました。*OLR* は母体が大阪大学英米文学・英語学研究室であり、かたや阪大英文学会は独立した学会なので、厳密な意味では繋がりを持たない。ただ、同じ大阪大学英文科出身者 (もしくは在学者) たちで作る *OLR* と、同じく阪大英文科出身者の学会ということで、今回 *OLR* の誌面をお借りすることになった。貴重なシンポジウムであり、大変充実した会となっただけに、何とか文字の形で記録を残しておきたいという、2018 年現在阪大英文学会会長の服部典之の強い気持ちからである。2017 年は藤井治彦先生の 20 回忌であり、奇遇なことに藤井先生の愛された阪大英文学会が創設 50 年という節目の年であった。

掲載を許可くださった *OLR* 編集者の皆様と、ご登壇いただいた先生方、貴重な文章をご寄稿くださった先生方に、心から感謝の念を表明させていただきます。

当日のシンポジウムのメンバーは以下の通りである。

「シンポジウム・藤井治彦」

司会 服部 典之 (大阪大学教授)

講師 新野 緑 (神戸市外国語大学教授)

渡辺 克昭 (大阪大学教授)

大森 文子 (大阪大学准教授)

川島 伸博（龍谷大学教授）

足達賀代子（京都大学非常勤講師）

また、当日は Prof. George Hughes にお越しいたごき、藤井先生に関する特別講演も行ってもらった。元東京大学外国人講師であるヒューズ先生は藤井治彦先生と当時大変親しくされており、藤井先生がお元気な頃は毎年集中講義で来られ、学部生・院生たちに刺激を与えてくださっただけでなく、夜は藤井先生のお宅で泊まれ、毎日遅くまで談論を楽しんでいらっしやっただと聞く。藤井先生が亡くなった後も、玉井暲先生が世話教授の役割を引き継がれ、ヒューズ先生は長らく阪大英文科に集中に来ていただいたが、東京大学を退職されてからはヨーロッパに引っ越され、現在はアイルランドに住んでいらっしやる。今回記念大会ということで、遠路はるばる来ていただいた。

この後に掲載した3つの文章を是非お読みいただき、藤井先生をご記憶の方は是非先生を思い出していただきたいし、知らない方々には皆に愛される素晴らしい先生であったことを感じて欲しいと望む次第である。